



TITLE:

京大広報 No. 43

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 43. 京大広報 1970, 43: 163-164

ISSUE DATE:

1970-10-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209652>

RIGHT:

京大広報

No. 43

京都大学広報委員会

教育学部長姫岡勤教授の急逝について



教育学部長姫岡勤教授は、10月19日午前0時50分心筋梗塞のため急逝された。同教授は昭和8年本学文学部（社会学専攻）卒業、台北帝国大学講師、天理大学教授を経て、昭和24年本学教養部

教授、34年4月教育学部教授となって社会教育講座を担当、45年1月教育学部長に就任されたが、来年3月の停年をまたずして逝去された。その研究領域は社会学を基盤に、文化人類学、教育社会学、社会教育へと幅広く展開されて、数多くの業績をとどめられ、同時に関西家族研究会・社会病理研究会などを主催、また日本社会学会理事、日本民族学会評議員、日本教育社会学会理事として斯界発展のために大きく寄与された。

なお故姫岡教授の教育学部葬は、下記により執り行なわれる。

日時：昭和45年11月1日（日）

午後1時30分～3時

場所：教育学部会議室

月曜会メモ

司会 本吉良治会員

第71回（10.5）

文学部越智武臣会員は10月5日をもって、清水純一助教授に交替するという報告があり、ついで

大検委について今井委員から報告があった後、食糧科学研究所および経済研究所における制度改革について次のように報告があった。

食糧科学研究所

研究所の現構成員は、教授6、助教授6、専任講師1、助手10、技官11、事務関係10、非常勤職員10、大学院学生33名よりなる。

管理体制

最上部に協議委員会がある。同研究所教授6、他学部6名、そのうちわけは、農3、理、工、薬各1、合計12名よりなる。協議委員会の下に研究所教授会があり、その構成は、教授、助教授、専任講師よりなる。また、週1回同メンバーにより所員会議をもち、連絡打合せをおこなっている。

研究体制

食研は当初より研究室制を採用し、この制度のもとで各研究室に固有の研究に従事するとともに、相互に関連する協同研究を促進して今日まで円滑に活動をつづけてきた。

この一年間の動向

所長の諮問機関として「幹事会」がもうけられた。教授、助教授、講師、助手、教務職員、行政職職員（研究室勤務）、非常勤職員、大学院博士課程学生、大学院修士課程学生の各グループから選出された、正・副各1名の幹事で構成されている。研究所内における管理、運営、研究、教育に関する問題点を取り上げ、諸グループの意見を交換審議してその改善をはかることを目的とし、また広報機関の役割もはたしている。幹事会の下に所長選考、人事、予算、大学院問題、宿日直の各専門委員会がもうけられ、それぞれ活動中である。

経済研究所

研究所の現構成員は教授6, 助教授5, 助手3の14名よりなる。現在においては大学院学生はおらない。

管理体制

最上部に協議員会がある。設立初期においては他学部長, 研究所長も構成メンバーの一部であったが, 現在では研究所教授よりなり, 助教授を加えることができる。

昭和39年に所員会議が発足した。所員会議は教授, 助教授よりなり, 人事以外の協議事項にかんしては助手も参加している。

昭和41年に, 当初計画の6部門が設置された段階で, 所員会議の承認をえて, 教授会が発足した。教授会は教授人事, 予算, 管理運営上の重要事項を審議し, 所員会議は助教授以下の人事, 予算案(研究費の配分にかんする), 管理運営上の連絡事項について協議する。

研究体制

共同研究(部門間にわたる), 部門研究, 個人研究の3種のプロジェクトがあるが, 予算の配分

については, 教授, 助教授, 助手の区別はない。各研究者およびグループ研究の代表者が提出するプロジェクトにもとづいて予算の分配が予算委員によっておこなわれる。

以上の2研究所の管理研究体制について以下のような点が関心事および論点となった。(1)協議員会が現在では有名無実である。(2)研究所と関係学部との関係について, 研究所が研究の進歩拡充をはかるため, 研究所自体の見解, 方針が尊重されねばならぬことはいうまでもないが, このことは, 独善を意味するものであってはならず, 他者からの批判に対してもつねに耳を傾けてこれを積極的改善の資とする姿勢を失わぬよう努めるべきである。
(本吉良治会員)

	正	誤
No.42		誤
1 ページ左欄		正
23行目	11祭	11月祭